

Chapter 1 企業活動

演習1-1

→別冊テキストP.2

解答-ア

- イ. 経営資源に関する記述です。
- ウ. 経営計画に関する記述です。
- エ. 企業文化(経営風土)に関する記述です。

演習1-2

→別冊テキストP.2

解答-イ

- ア. 経営計画に関する記述です。
- ウ. 経営課題に関する記述です。
- エ. 社風に関する記述です。

演習1-3

→別冊テキストP.2

解答-ウ

- ア. 経営計画を策定する意義です。
- イ. 経営戦略を策定する意義です。
- エ. 経営目標を策定する意義です。

演習1-4

→別冊テキストP.2

解答-イ

- ア. コアコンピタンス経営の目的です。
- ウ. CSR活動の目的です。
- エ. プライベートブランド戦略の目的です。

演習1-5

→別冊テキストP.2

解答-ア

- イ. アライアンスとは、それぞれの企業が保有する経営資源を補完することを目的とした、企業間での事業の連携、提携や協同行動のことです。
- ウ. コアコンピタンスとは、競合他社では提供ができない価値を顧客にもたらす、企業の中核的な力のことです。
- エ. コーポレートガバナンスとは、経営者の規律や重要事項に対する透明性の確保、利害関係者の役割と権利の保護など、企業活動の健全性を維持する枠組みのことです。

演習 1-6

→別冊テキストP.2

解答-ア

CSR (Corporate Social Responsibility) とは、「企業の社会的責任」と訳され、企業は利益の追求や必要最小限の法令遵守だけでなく、消費者への適切な対応や環境への配慮、地域社会への貢献などを意識した活動を行う必要性があるという考え方です。

演習 1-7

→別冊テキストP.2

解答-ア

- イ. SDK (Software Development Kit) は、一つのアプリケーションを開発するために必要なプログラムや仕様書などの開発ツール群を意味します。
- ウ. SGA (System Global Area) は、Oracle Database におけるデータベースシステム全体で共有するメモリ領域の呼び名です。
- エ. SGML (Standard Generalized Markup Language) は、文書の構造や意味を定義するマークアップ言語です。

演習 1-8

→別冊テキストP.4

解答-ウ

PDCA は、計画 (Plan)、実行 (Do)、評価 (Check)、改善 (Act) のプロセスを順に実行し、品質の維持・向上、業務改善に結びつける方法です。

演習 1-9

→別冊テキストP.5

解答-ア

BCP (Business Continuity Plan: 事業継続計画) は、大規模な災害などによって、企業活動を支える重要な情報システムに障害が発生したような場合でも、企業活動の継続を可能にするために、あらかじめ策定する計画です。

演習 1-10

→別冊テキストP.5

解答-ア

BCP (Business Continuity Plan: 事業継続計画) は、大規模な災害などによって企業活動に障害が発生する場合に備えて、あらかじめ策定する計画です。

BCM (Business Continuity Management: 事業継続マネジメント) は、大規模な災害などによって企業活動に障害が発生する場合に備えて BCP を策定し、BCP 実行に必要な資源などを準備し、管理することです。

演習1-11

→別冊テキストP.6

解答-イ

Off-JTは、職場外で専門の講師による研修などに参加することを通じ、基本的な知識や一般的な技術を身につける教育方法です。これに対して、職場内で職務をとおして、仕事に即した実践的な知識や技能を、直接上司や先輩社員から習得する教育方法をOJTと呼びます。

演習1-12

→別冊テキストP.6

解答-エ

- ア. CDPは、本人の希望と会社の方針により、従業員の能力を長期的な計画に基づいて開発する方法です。
- イ. eラーニングは、パソコンやネットワークを利用したOff-JTの一形態です。
- ウ. Off-JTは、職場外で専門の講師による研修などに参加することを通じ、基本的な知識や一般的な技術を身につける教育方法です。

演習1-13

→別冊テキストP.6

解答-イ

eラーニングは、パソコンやネットワークを利用した学習形態で、場所や時を選ばずに個別に学習できるメリットがある反面、講師に直に質問することや、学習者同士で意見交換を行うことはできません。

演習1-14

→別冊テキストP.7

解答-イ

選ばれなかったものについて解説をしておきます。

- ア. グラスシーリング(ガラスの天井)とは、組織内での昇進を阻む、人種や性別などの見えない壁のことです。
- ウ. ホワイトカラーエグゼンプションとは、オフィスで働くホワイトカラーと呼ばれる労働者の一部に対して、労働法上の労働時間の規制を緩和することです。
- エ. ワークライフバランスとは、従業員がやりがいをもって業務に取り組めるように仕事と生活の調和を図ることです。

演習1-15

→別冊テキストP.8

解答-ウ

職能別組織は、経理、営業、製造、人事、研究開発などの各人の活動（職能）によって区分編成した組織です。

選ばれなかったものについて解説をしておきます。

- ア. 事業部制組織は、製品別、顧客別、地域別などによって企業を幾つかのグループに分割し、それぞれのグループごとに利益責任を負う組織です。
- イ. 社内ベンチャ組織は、新しい事業分野に挑戦するために、既存の組織から独立させて編成される組織です。
- エ. マトリックス組織は、職能別組織と事業部制組織を統合した形で、構成員が二つ以上の部門に属し、職能を残しながら業務を遂行する組織です。

演習1-16

→別冊テキストP.8

解答-イ

- ア. プロジェクト組織を説明したものです。
- ウ. 事業部制組織を説明したものです。
- エ. マトリックス組織を説明したものです。

演習1-17

→別冊テキストP.8

解答-ア

- イ. 職能別組織は、経理、営業、製造、人事、研究開発などの各人の活動（職能）によって区分編成した組織形態です。
- ウ. プロジェクト組織は、特定の目的を実現するために、必要とされる専門技術や知識をもった人材を集め、臨時的に編成される組織形態です。
- エ. マトリックス組織は、職能別組織と事業部制組織を統合した形で、構成員が職能を残しながら二つ以上の部門に属し、業務を遂行する組織形態です。

演習1-18

→別冊テキストP.8

解答-エ

- ア. 事業部制組織とは、製品別、顧客別、地域別などによって企業をいくつかのグループに分割し、それぞれのグループごとに利益責任を負う組織構造です。
- イ. 社内ベンチャ組織とは、新しい事業分野に挑戦するために、既存の組織から独立させて編成される組織構造です。
- ウ. 職能別組織とは、経理、営業、製造、人事、研究開発などの各人の活動（職能）によって区分編成した組織構造です。

演習1-19

→別冊テキストP.8

解答-ウ

選ばれなかったものについて解説をしておきます。

- ア. アウトソーシングは、外部の専門業者に業務の一部又は全部を委託することです。
- イ. タスクフォースは、特定の任務や課題に取り組むために編成される組織です。
- エ. マトリックス組織は、職能別組織と事業部制組織を統合した形で、構成員が職能を残しながら二つ以上の部門に属し、業務を遂行する組織です。

演習1-20

→別冊テキストP.10

解答-イ

- ア. 監査役の役割です。
- ウ. COOの役割です。
- エ. CFOの役割です。

演習1-21

→別冊テキストP.10

解答-ア

CIO (Chief Information Officer) は、情報統括役員のこと、情報システム部門の最高責任者です。具体的には、自社の情報システムの基盤整備と情報活用能力の向上の推進を統括し、経営戦略と情報戦略について、その整合性の確認や評価を行います。

なお、CTO (Chief Technology Officer) は技術統括役員のこと、技術開発部門、研究開発部門の最高責任者です。

演習1-22

→別冊テキストP.10

解答-イ

CFO (Chief Financial Officer:最高財務責任者) は、投資意思決定、資金調達、経理、財務報告を任務として設置した役員です。

- ア. CTO (Chief Technology Officer:最高技術責任者) が責任をもつ対象です。
- ウ. CIO (Chief Information Officer:最高情報責任者) が責任をもつ対象です。
- エ. CHO (Chief Human resource Officer:最高人事責任者) が責任をもつ対象です。

演習1-23

→別冊テキストP.10

解答-ア

株主総会は、商法(会社法)において株式会社の最高意思決定機関と位置づけられています。株主総会の主な決議事項には、「会社の組織・業態に関する事項(定款の変更、資本減少、合併、解散など)」、「機関の構成員(取締役、監査役など)の選任、解任などに関する事項」、「業務運営、株主の利益に関する事項(配当など)」があります。

- イ. 監査役会は、3名以上の監査役で構成される、監査意見をまとめる機関です。株式会社には必ずしも監査役会を設置する必要はありません。
- ウ. 代表取締役は、株式会社において、会社を代表する権限をもつ取締役のことです。
- エ. 取締役会は、商法(会社法)において株主総会で選任された取締役から構成される、常設の業務意思決定機関と位置づけられています。

演習1-24

→別冊テキストP.10

解答-ア

事業戦略を執行するのは経営陣の責任であり、そのための権限も経営陣が持っています。株主総会の決議は必要としません。

演習1-25

→別冊テキストP.10

解答-イ

- ア. 会計監査人は、企業の公表する財務諸表の記載内容を対象とした監査を実施します。
- ウ. 社長は、会社の最高責任者をいいます。
- エ. 取締役会は、取締役により構成された意思決定機関です。

演習1-26

→別冊テキストP.10

解答-エ

- ア. 会計監査人の役割です。
- イ. CFO(最高財務責任者)の役割です。
- ウ. 取締役の役割です。

演習1-27

→別冊テキストP.13

解答-ウ

- ア. アローダイアグラム(PERT図)に関する記述です。
- イ. 散布図に関する記述です。
- エ. レーダチャートに関する記述です。

演習1-28

→別冊テキストP.13

解答-ウ

選ばれなかったものについて解説をしておきます。

- ア. 管理図は、時系列データのばらつきを折れ線グラフで表し、管理限界線を利用して管理する図です。
- イ. 系統図は、目的とする事象と目的を実現するための手段の関係をツリー状に表した図です。
- エ. マトリックス図は、2次元の表を用いて問題点を整理し、解決の方法を探るための図です。

演習1-29

→別冊テキストP.13

解答-エ

- ア. ガントチャートは、計画を立てて進行状況を把握し、作業工程を管理するための図です。
- イ. 管理図は、作業の流れとともに時系列的に発生するデータのばらつきを折れ線グラフで表したもので、工程に異常が発生していないかどうかを判断するために使われます。
- ウ. 特性要因図は、特性（結果）とそれに影響を及ぼすと思われる要因（原因）との関連を整理して、魚の骨のような図に体系的にまとめたものです。仕事の管理、改善や品質管理を効果的に進めるためには欠かせない図です。

演習1-30

→別冊テキストP.14

解答-エ

- ア. 管理図は、工程に異常が発生していないかどうかを判断するために使用します。
- イ. 散布図は、2つの特性の一方の変化が他方の変化に与える影響をみるために使用します。
- ウ. 特性要因図は、仕事の管理・改善や品質管理を効果的に進めるために使用します。

演習1-31

→別冊テキストP.16

解答-イ

売上高に対する売上原価の比率を求めると次のようになり、減少傾向であることがわかります。

$$2007年：60億円 \div 100億円 = 0.6$$

$$2008年：70億円 \div 130億円 \approx 0.54$$

$$2009年：80億円 \div 160億円 = 0.5$$

また、販売費及び一般管理費の額は次のように計算できます。

$$2007年：100億円 - 60億円 - 100億円 \times 15\% = 25億円$$

$$2008年：130億円 - 70億円 - 130億円 \times 12\% = 44.4億円$$

$$2009年：160億円 - 80億円 - 160億円 \times 9\% = 65.6億円$$

したがって、売上高に対する販売費及び一般管理費の比率は次のようになり、増加傾向であることがわかります。

$$2007年：25億円 \div 100億円 = 0.25$$

$$2008年：44.4億円 \div 130億円 \approx 0.34$$

$$2009年：65.6億円 \div 160億円 = 0.41$$

演習1-32

→別冊テキストP.16

解答-エ

レーダチャートは、円を評価項目数で等間隔に分割して、円の中心と円周を結ぶ項目線（半径）上に書く項目の評価値をプロット（記入、図示）し、隣接するプロットされた点を線で結んだグラフです。

- ア. 円グラフは、全体を100%として各構成要素の比率を計算し、円全体（360°）をその比率に従って分配し、各要素を表示したものです。
- イ. 散布図は、横軸と縦軸に関連のある2つの特性をとり、測定値をプロットしたもので、2つの特性の相関関係をみるために作成します。
- ウ. パレート図は、データをいくつかの項目に分類し、座標の横軸方向に大きい項目順に棒グラフとして並べ、それに重ね合わせて累積値を折れ線グラフで描いたものです。

演習1-33

→別冊テキストP.16

解答-エ

- ア. 管理図は、作業の流れと共に時系列的に発生するデータのばらつきを折れ線グラフで表したもので、工程に異常が発生していないかどうかを判断するために使われます。
- イ. 特性要因図は、特性（結果）とそれに影響を及ぼすと思われる要因（原因）との関連を整理して、魚の骨のような図に体系的にまとめたものです。
- ウ. パレート図は、問題点整理のため、データをいくつかの項目に分類し、横軸方向に大きさの順に棒グラフとして並べ、それに重ね合わせて累積値を折れ線グラフで表した図です。

演習1-34

→別冊テキストP.20

解答-イ

散布図は、横軸と縦軸に関連のある2つの特性をとり、測定値を点で書き込んだもので、2つの特性の一方の変化が他方の変化に与える影響（相関関係）をみるために作成します。

- ア. 決定表は、問題を処理するための条件と、その条件に対する処理の関係を示したもので、要件定義を行う場合に使用します。
- ウ. 特性要因図は、特性（結果）とそれに影響を及ぼすと思われる要因（原因）との関連を整理して、魚の骨のような図に体系的にまとめたものです。
- エ. パレート図は、問題点整理のため、データを幾つかの項目に分類し、横軸方向に大きさの順に棒グラフとして並べ、それらの和を折れ線グラフ（累積曲線）で表した図です。

演習1-35

→別冊テキストP.22

解答-ア

- イ. データセンタは、顧客のサーバを預り、インターネットへの接続や保守を行う施設です。
- ウ. データフローダイアグラム(DFD)は、物や金の流れを外し、データの流れに着目して表現する技法です。
- エ. データマイニングは、様々な角度で分析した結果の中から、そこに潜む法則や因果関係などの意味情報を発掘することです。

演習1-36

→別冊テキストP.22

解答-イ

- ア. データクレンジングは、データウェアハウスを構築するために、データを統合するに当たって、物流や販売など部門ごとに異なっているデータの扱い方法を統一する処理です。
- ウ. データマネージングは、データベースなどを使用してデータを管理することです。
- エ. データモデリングは、E-R図やUMLなどのデータモデリング技法を用いてデータモデルを作成することです。

演習1-37

→別冊テキストP.22

解答-ア

- イ. BPRIは、既存の組織構造や業務プロセスを抜本的に見直し、必要な業務プロセスを再構築することです。
- ウ. EAは、情報システムが社会環境や情報技術の変化に素早く対応できるように、組織における既存の業務とシステムを見直すための技法です。
- エ. SOAは、顧客に提供するサービスの集まりとしてシステムを構築するという考え方です。

演習1-38

→別冊テキストP.22

解答-ア

データマイニングとは、様々な角度で分析した結果のなかから、そこに潜む法則や因果関係などの意味情報を発掘することです。

演習1-39

→別冊テキストP.22

解答-ア

データマイニングとは、顧客管理や商品管理といった目的で蓄積されたデータベースから、その中にひそむ法則や因果関係などの、経営にとって意味のある情報を導き出す技術です。この技術を用いることで、販売・流通業では、顧客のニーズに即した品揃えなどが可能になります。

演習1-40

→別冊テキストP.24

解答-ア

「1個の製品Pは2個の部品Qで構成」されるので、製品Pを6個生産するのに必要な部品Qの個数は次のようになります。

$$2\text{個} \times 6 = 12\text{個}$$

なお、「部品Qは1個在庫がある」ので、必要な個数は次のようになります。

$$12\text{個} - 1\text{個} = 11\text{個}$$

また、「部品Qは4個の部品Rで構成」されるので、部品Qを11個生産するのに必要な部品Rの個数は次のようになります。

$$4\text{個} \times 11 = 44\text{個}$$

したがって、「部品Rは3個在庫がある」ので、必要な個数は次のようになります。

$$44\text{個} - 3\text{個} = 41\text{個}$$

演習1-41

→別冊テキストP.26

解答-イ

問題文の「部品Bは、毎月の第1営業日に発注し～翌月以降の生産に使用される。」という記述から、製品Aの当月の生産計画は、部品Bの前月の月末在庫量に依存することが分かります。

部品Bの3月の月末在庫量が6,000個に対して、製品Aの4月の生産計画が5,000個、部品Bの4月の発注量が6,000個なので、部品Bの4月の月末在庫量は7,000個です。製品Aの5月の生産計画が6,000個なので、部品Bを発注しない状態での部品Bの5月の月末在庫量は1,000個になります。したがって、製品Aの6月の生産計画7,000個を満たすには、部品Bの5月の月末在庫量が7,000個になるように、部品Bを最低6,000個発注する必要があります。

演習1-42

→別冊テキストP.26

解答-ウ

仮に在庫が87個しかない場合、87個を超えて売れた場合に品切れになるので、品切れになる確率は、 $11+20+26+20+11+5+1=94\%$ です。

また、在庫が88個しかない場合に品切れになる確率は、 $20+26+20+11+5+1=83\%$ です。

同様に、在庫数ごとに品切れになる確率を求めると、在庫が92個の場合に、 $5+1=6\%$ となり、発注時に最低92個の在庫があれば、品切れになる確率を10%未満にすることができます。

演習1-43

→別冊テキストP.26

解答-ア

「部品Bの安全在庫は、当該週の部品Bの総所要量の25%とする。」という記述から、第2週及び第3週の部品Bの在庫量（安全在庫）は次のようになります。

$$80 \times 25\% = 20 \text{ (第2週)}$$

$$40 \times 25\% = 10 \text{ (第3週)}$$

また、第3週の部品Bの在庫量=第2週の部品Bの在庫量+第2週の部品Bの発注量(空欄a)-翌週の部品Bの総所要量なので、次の式が成り立ちます。

$$10 = 20 + \text{空欄}a - 40$$

$$\text{空欄}a = 10 + 40 - 20 = 30$$

演習1-44

→別冊テキストP.28

解答-ア

イ. ベンチマーキングは、最強の競合相手又は先進企業と比較して、製品やサービス、オペレーションなどを定性的・定量的に把握することです。

ウ. ロールプレイングは、擬似体験を通して教育を行う方法です。

エ. ワークデザインは、理想的な観点から問題解決を導く方法です。

演習1-45

→別冊テキストP.28

解答-イ

ブレインストーミングは、より多くのアイデアが出るように、次のようなルールに沿って行われる討議方法です。

- ①批判禁止:他人のアイデアや意見を批判しない。
- ②質より量:短時間でできるだけ多くのアイデアや意見を出すようにする。
- ③自由奔放:自由な発想で意見を出し合う。
- ④結合・便乗歓迎:他人のアイデアに便乗して新しいアイデアを出すようにする。

演習1-46

→別冊テキストP.30

解答-イ

利益は、売上高から費用（固定費と変動費の合計）を差し引いて求めます。

単価200円の商品を5万個販売したので、売上高は次のように計算されます。

$$\text{売上高} = 200 \text{円} \times 5 \text{万個} = 1,000 \text{万円}$$

利益が300万円、固定費が300万円なので、変動費は次のように計算されます。

$$\text{変動費} = 1,000 \text{万円} - 300 \text{万円} - 300 \text{万円} = 400 \text{万円}$$

したがって、商品1個当たりの変動費は次のように計算されます。

$$\text{商品1個当たりの変動費} = 400 \text{万円} \div 5 \text{万個} = 80 \text{円}$$